第23回全国棚田（千枚田）サミット

報告書

目　次

1　大会概要　…
2　大会スケジュール　…
3　式典関係　…
4　現地見学会　…
} 報告書（抜粋）

5　棚田サミットレポート　…　広報波佐見１１月号

1　大会概要

開催テーマ

「棚田は２１世紀の社交場」　～棚田で出会う、触れ合う、分かち合う～

開催趣旨

昔の人は、米を作るため、急峻な土地を拓き、棚田を築きました。今の人は、国土の保全・生物多様性など棚田の多面的機能に気づきました。そして農村と都市の交流が活発になり、今や「棚田」と聞くと美しい日本の原風景を連想させるようになりました。これまで先人から引き継いで棚田の実りを支えてきた人たちが、景観や保全を意識するようになり、我が棚田を誇りに思うようになっています。私たちは、「棚田で迎える人」と「棚田へ出掛ける人」の気持ちが通い合う社交場として、２１世紀に継承する棚田のこれからについて考えます。

運営

主催　全国棚田（千枚田）連絡協議会
主管　第２３回全国棚田（千枚田）サミット実行委員会
共催　長崎県

開催期間

平成２９年９月２７日（水）～平成２９年９月２９日（金）　３日間

開催地

長崎県　波佐見町

参加人数　（※来賓等、講師・コーディネーター・話題提供者を含む。）

都道府県別参加者数								
東北 13 人	宮城県	1	中部 21 人	岐阜県	6	九州 470 人	福岡県	57
	秋田県	3		静岡県	10		佐賀県	130
	山形県	9		愛知県	5		長崎県	207
関東 82 人	茨城県	2	近畿 17 人	京都府	4	長崎県内訳	熊本県	40
	群馬県	1		大阪府	2	町内 92	大分県	14
	埼玉県	2		兵庫県	2	町外 115	宮崎県	8
	千葉県	32		和歌山県	9		鹿児島県	14
	東京都	18	中国 23 人	島根県	1	合計	35 都府県	682
	神奈川県	2		岡山県	1			
	山梨県	3		広島県	10	区分別参加者数		
	長野県	22		山口県	11	一般参加者		643
北陸 41 人	新潟県	28	四国 15 人	徳島県	5	来賓等		12
	富山県	1		香川県	2	講師等		27
	石川県	12		愛媛県	6	スタッフ（実行委員会所属団体）		166
				高知県	2	地元スタッフ		120

参加料　３，０００円　（交流会参加費５，０００円は別途）

2　大会スケジュール

日程		内容	会場	参加者数
27日	17：00～18：00	全国棚田（千枚田）連絡協議会理事会	西の原８３３スタヂオ	29
28日	11：15～12：00	全国棚田（千枚田）連絡協議会総会	波佐見町総合文化会館大ホール	113
	12：00～13：30	昼食	波佐見町体育センター	390
	13：30～14：00	オープニング	波佐見町総合文化会館大ホール	644
	14：00～14：30	開会式		
	14：30～14：50	事例発表　長崎大学大学院生 「鬼木地区歴史・景観等調査報告」		
	14：50～16：00	基調講演　講師　三善　浩二氏 「土の気持ち」～都市が農村を支える時代へ～		
	16：20～18：20	**第１分科会** 迎えよう！社交あふれる美しい棚田で	波佐見町総合文化会館大ホール	263
		第２分科会 出掛けよう！社交を求め楽しい棚田へ	波佐見町立中央小学校体育館	159
		棚田女子会 社交性を発揮！おいしい棚田のおもてなし	波佐見町総合文化会館和室	45
		特別分科会 農と陶の交わり！食文化を支える波佐見焼	波佐見町立波佐見中学校体育館	60
		棚田のまもりびとミーティング 保存会における女性パワー	波佐見町総合文化会館研修室2・3	33
		首長会議 中山間地域における担い手確保について	西の原８３３スタヂオ	40
		国際分科会 世界の傾斜農地と棚田	波佐見町総合文化会館研修室4	17
	18：30～20：30	全体交流会	波佐見町体育センター	468
29日	9：00～12：00	現地見学会	鬼木棚田・陶郷中尾山・陶芸の館	390
	12：00～13：00	昼食	波佐見町体育センター	404
	13：00～13：30	分科会のまとめ	波佐見町総合文化会館大ホール	255
	13：30～14：00	閉会式		

3　式典関係

全国棚田（千枚田）連絡協議会　理事会

全国棚田（千枚田）連絡協議会会長（新潟県佐渡市長三浦基裕）、第２３回全国棚田（千枚田）サミット実行委員会会長（長崎県波佐見町長一瀬政太）あいさつの後、議事に入りました。

議案は次のとおりです。

議案第１号　平成２８年度事業報告及び歳入歳出決算の承認について
議案第２号　平成２９年度事業計画（案）及び歳入歳出予算（案）について
議案第３号　次期サミットの開催地について
議案第４号　役員改選（案）について
議案第５号　中山間地域に対する各種法制度等の要望骨子（案）について

議事終了後、第２３回全国棚田（千枚田）サミット共同宣言について、会員の入退会について、平成２８年度中山間地域に対する各種法制度等の要望についての報告が行われ、閉会しました。

■日　時　９月２７日（水）午後５時から
■場　所　西の原８３３スタヂオ
■出席者　１５人（内代理出席６人）及び委任８人の計２３人

全国棚田（千枚田）連絡協議会　総会

全国棚田（千枚田）連絡協議会会長、第２３回全国棚田（千枚田）サミット実行委員会会長あいさつの後、議事に入りました。

議案は次のとおりです。

議案第１号　平成２８年度事業報告及び歳入歳出決算の承認について
議案第２号　平成２９年度事業計画（案）及び歳入歳出予算（案）について
議案第３号　次期サミットの開催地について
議案第４号　役員改選（案）について

※議案第２号に関して、個人正会員高野氏より、ホームページの年間保守管理を改善するように要望がありました。この要望に対して、事務局から情報発信のあり方を含め見直しを検討する旨回答がありました。

議事終了後、第２３回全国棚田（千枚田）サミット共同宣言について、会員の入退会について、平成２８年度中山間地域に対する各種法制度等の要望についての報告が行われ、閉会しました。

■日　時　９月２８日（木）午前１１時１５分から
■場　所　波佐見町総合文化会館大ホール
■出席者　３９人（内代理出席者１０人）及び委任４２人の計８１人

第 23 回全国棚田（千枚田）サミット　開会式

波佐見児童合唱団のオープニングに引き続き開催された開会式には、多数の来賓にご出席いただき、報道関係等を含めると約７００人で会場が埋め尽くされました。

■日　時　９月２８日（木）午後２時から
■場　所　波佐見町総合文化会館大ホール
■参加者　６４４人
■次　第

会長あいさつ	佐渡市長	三浦　基裕
実行委員会会長あいさつ	波佐見町長	一瀬　政太
開催県歓迎のあいさつ	長崎県副知事	濱本　磨毅穂
来賓祝辞	九州農政局次長	堀畑　政純

第 23 回全国棚田（千枚田）サミット　閉会式

地元・鬼木棚田協議会を代表し、将来の棚田の後継者３人が共同宣言を読み上げました。また、来年開催地の長野県小谷村の松本村長に全国棚田（千枚田）連絡協議会旗を引き継ぎ、２日間のサミットは無事閉幕しました。

■日　時　９月２９日（金）午後１時３０分から
■場　所　波佐見町総合文化会館大ホール
■参加者　２５５人
■次　第

共同宣言
協議会旗引き継ぎ
時期開催地あいさつ

本当に第２３回棚田サミットは素晴らしいものだと思います。これに負けないように、明日から一生懸命村をあげて準備をして、来年の９月８日、９日には皆様をお迎えしたいと思っています。是非、今から来年の予定表に小谷村と記入していただきまして、この会場の皆さん全員の皆さんに来ていただきたいと思います。よろしくお願いします。

小谷村長　松本　久志

閉会あいさつ

開催にあたり、多大なご協力をいただきました関係者の皆様方、心より感謝申し上げます。今回のサミットでの交流が、全国各地域の棚田を取り巻く環境に明るい光を差す取り組みになることを期待します。

サミット実行委員会副会長
波佐見町議会議長　今井　泰照

4　現地見学会　　9月29日　9：00～12：00

新たな試み

～波佐見町をぐるぐる作戦～

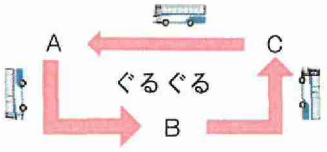
従来のサミットでは、複数のコースが設けられていた現地見学会。参加する側は、魅力的なコースが多いと選択に苦労します。また、主催する側にとって、見学先の数が多ければそれだけ交通誘導などにスタッフが必要となり、希望が集中した場合、参加者の割振りも大変になります。

検討の結果、見学先をコンパクトな３か所に絞った「循環方式」は、恐らく全国棚田サミットでは、初の試みとなりました。

従来

一旦集合
- Ａコース　Ａ１→Ａ２→Ａ３
- Ｂコース　Ｂ１→Ｂ２→Ｂ３
- Ｃコース　Ｃ１→Ｃ２→Ｃ３
- Ｄコース　Ｄ１→Ｄ２→Ｄ３

新方式



（メリット）
- スタッフ数の削減
- 一旦集合しないので、待ち時間が短縮
- 見学先が同一のため、参加者に公平感を与える。

（デメリット）
- ほかの見どころが紹介できない。
- 時間のゆとり（遊び）が少ない。
- 一人の遅れが、全体に影響する。
- 見学時間帯の交通混雑

徹底した時間の管理

上記を踏まえ、現地見学会を成功させるには、まずスタッフ全員が、この見学方式の理解することが重要です。

そのため、観光ガイド・バス会社・添乗員・交通整理員・地元協力者と何度も打ち合わせを行い、本番までに十分なシミュレーションを行い、スムーズな見学ができるように調整しました。

（デメリットへの対応策）
- バス移動中に波佐見町を紹介する。
- バスの出発時刻を優先し、乗り遅れには、スタッフの車で追いかける。
- 無線連絡による見学地間の連携
- 広報等により町民への交通混雑を事前周知
- 参加者への時間厳守のお願い
- バス号車番号の表示の工夫

当日は、１６台の見学バスはスムーズに運行できました。皆さんのご協力に感謝申し上げます。

Ａ　鬼木棚田

全国からお客様を迎えるに当たり、地元要望を受け、ハード面では以下のとおり整備しました。
- 自治振興補助金を活用した案内看板作成・設置
  （事業費　約５３万円）
- 遊休地の無償貸与による第２展望所等の整備
  （事業費　約３５０万円）

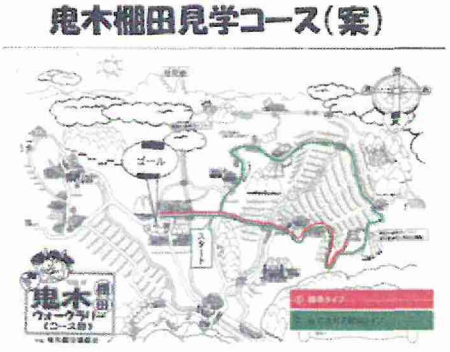
また、鬼木棚田協議会では、これまでも全国棚田サミットに参加した経験から、ＰＴＡや婦人会等の代表者を巻き込んだ実行委員会を組織し、準備を整えられました。

鬼木棚田現地見学への地元協力体制

自治会・長寿会・ＰＴＡ		婦人会・長寿会
見学対応班	交通整理班	おもてなし班
鬼木棚田や まつりの紹介 １０人	来場者の誘導 ２０人	よもぎ餅とお茶の接待 ２０人

特に、棚田見学の目玉となる「ユニーク案山子」の制作に力を入れていただき、例年を 50 体上回る約 170 体の案山子が沿道に立ち並びました。

見学コースは、体力差を想定して２パターン用意しましたが、約８割の方が棚田を一周する健脚コース（２km）を歩いていただきました。

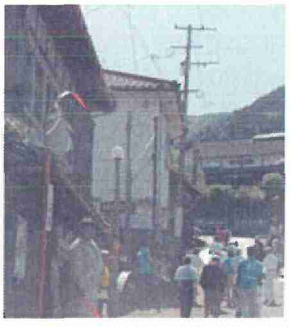


B　陶郷中尾山

鬼木棚田の隣の集落・中尾地区は古くからやきものの生産が盛んに行われてきました。趣のある坂道の路地裏は、長崎らしさを演出します。町内有数の観光スポットです。早くから自治会の協力は得られていましたが、大型バスが通れない道幅の狭さやバスのための駐車場確保、バス毎の見学コース設定など、最大４５０人の受け入れ体制を整えるため、従事者との打ち合わせ・下見を重ねました。バス１台に一人の観光ガイドを配置するため、１５人のガイドが必要となり、ＯＢにも応援いただきました。

中尾山現地見学への地元協力体制

見学対応	交通整理	駐車場借用
窯元９軒	自治会１４人	２箇所



C　陶芸の館

「世界の窯広場」には、古代から近世にかけての世界を代表する珍しい窯が12基再現されています。また、資料館では400年の波佐見焼の歴史と伝統や匠たちの技をはじめ現代の商品までを展示紹介しています。特に、館の主、絵付師ロボット〝源さん〟の身振り手振り説明も見どころです。

今回、波佐見町立東小学校の児童全員がウェルカムカードを作成し、陶芸の館前や世界の窯広場で出迎え、現地見学会参加者に手渡しました。小学生との交流に感動した参加者から後日、学校にお礼の手紙が届けられ、児童にとっても有意義な課外授業となりました。

さらに、旅の思い出に波佐見焼をお土産に買っていただき、波佐見焼を全国へお届けする機会になりました。お買い上げありがとうございました。

世界の窯広場

ストラップ選び

お買い物

小学生のお見送り

実は隠れた努力

８月の除草作業後、適度な雨と晴天に恵まれ、９月中旬には雑草が大増殖。急きょ職員総出で、道路沿いや公園内の除草作業を実施しました。また、普段は見過ごされていた圃場のヒエも、できる範囲で抜き取りをするよう農業者にお願いしました。

嬉しいことに、町内企業・団体から申し出があり、環境美化にご協力いただきました。（長崎キヤノン株式会社、波佐見町陶芸協会　敬称略）

Tanada Summit Report

棚田サミットレポート

メインテーマ
「棚田は21世紀の社交場」

第23回全国棚田（千枚田）サミット無事終わりました

約半年にわたりお伝えしてきましたサミットレポートも最終回となります。平成26年に波佐見町開催が決定してから早3年。準備に時間をかけた分、大会はほぼスムーズに進行しました。

町内からの参加者からは、せっかくの全国大会に、もっと町民の皆さんにも参加してもらえなかったのかとご指摘いただきましたが、期限を過ぎての申込は、会場の都合で、参加をお断りしなければなりませんでした。こうした声が出るということは、サミットの内容が充実していたからだと前向きに受け止めています。

お礼状

さて、この度は、「全国棚田サミット」に際しまして、町民の皆様にご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。おかげさまで、参加者も波佐見らしいサミットの内容に満足いただき、大成功のうちに終了することができました。この大会で、広い世代で棚田を保全する意義を再認識できたことは、中山間地域の農業の原動力となりました。今回の成果を次の振興へつなげていく所存です。

第23回全国棚田サミット実行委員会事務局

第6弾「サミットは笑顔に溢れる」の巻（最終回）

ちょっぴりユーモラスな「鬼木浮立」

9月28日のお昼前はあいにくの小雨交じり。急きょ、会場を体育センターに変更しました。浄瑠璃用の舞台を背景に踊りが映えました（結果オーライ）。ステージから飛び出した猿は、会場の笑いを誘い、おひねりが投げられるなど、大いに盛り上がりました。

圧巻の歌声「児童合唱団」

開会式典のトップを飾る児童合唱団。園児から大学生まで総勢67名の団員が全国の棚田の写真を背景に繰り広げられる懐かしい楽曲を披露しました。大ホールを埋め尽くした聴衆は、迫力あるステージに魅了され、感動で涙目の人が続出しました。音響設備が十分でない中、「ブラボー!!」でした。

今回は、2日間で延べ千人が参加した『笑いと感動』のサミットの模様をお届けします。

〝集落と一体となった〟鬼木棚田の魅力を発表

長崎大学院生・永渕嵩さんから鬼木棚田の特徴を報告していただくとともに、調査で感じた鬼木郷の魅力として、①関門（旧鬼木公民館前）から広がるパノラマの景色、②〝地産地消〟の石積棚田のダイナミックさ、③清流水と称えられる生活を支える水の豊富さ、④空き家の少ない統一感のある集落、⑤伝統文化を受け継ぐ地元の人たちの温かみ、と紹介されました。

従来のサミットと一線を画した抱腹絶倒の講演

昼下がりの講演会というと睡魔が襲うものですが、歌謡曲や川柳を織り交ぜた三善さんの話には、随所に笑いが巻き起こっていました。「何もしないことが農業の失敗であり、それぞれが郷土愛に火をつけよう！」と棚田関係者に熱く語りかけていました。地域資源（人）を活かし、遊ぶ・学ぶ・泊まるにシフトしている価値観に、農村の魅力をどう売り込むかを考える機会になりました。「米を売るな！おにぎりを売れ！」が村おこしのヒントかも知れません。

7つの会場に分かれての分科会・・・それぞれで議論が白熱していました。

（参加者の声より）

第1分科会
「迎えよう！社交あふれる美しい棚田で」
コーディネーターの菊森淳文さん

交流人口を増やすとともに、棚田を資源とした事業を創ることが必要。事業継承は後継者側からの前向きなアプローチも重要であるが、そのためには、今ある棚田を魅力的に見せて、地域への愛着を醸成しなければならない。

第2分科会
「出掛けよう！社交を求め楽しい棚田へ」
コーディネーターの井手修身さん

ただ外の人たちが、来られるだけでは保全するのも難しくなっていきます。もっと商売っ気を出してください。駐車場代を取っても可。外から来る人に保全のための負担を求め、棚田の魅力・価値を提供してください。

棚田女子会
「社交性を発揮！おいしい棚田のお」
パネリストの本田節さん

農村の女性は常に進化している。商品開発など、稼ぐことに対して、研究熱心であり意欲的である。今後は女性が表舞台に出てくる仕掛けがさらに重要。棚田のおもてなしは女性が主役であることを声を大にして言いたい。

特別分科会
「陶と農の交わり！食卓を支える生地職人」
責任者の平野英延さん

食に欠かせないのが器です。生地職人さんによる「やきものづくり」の実演は、波佐見でしかできない分科会でした。波佐見焼の知名度向上に繋がったと思います。

棚田のまもりびとミーティング
コーディネーターの中島崎広さん

保存会の活動を持続していくためには、組織を法人化し、取組を事業化しなければならない。ボランティアでは続かない。

首長会議
コーディネーターの千賀祐太郎さん

地域おこし協力隊の活動は今後の中山間地域の支援策として期待されており、協力したいと思っている都会の若者も多い。

国際分科会
まとめ発表者の安井一臣さん

全員参加型の分科会食糧生産と環境修復が22世紀に向けて課せられた課題。広い意味での国際化が必要。来年も国際分科会を開いて欲しい。

海フェスタ 大村湾 in 波佐見
～海と日本PROJECT～も同時開催

大村湾のふるさと〝鬼木棚田〟を見学しました。美味しい米は、きれいな水が育てます。即ち鬼木棚田の保全活動は、美しい大村湾に寄与しています。また陸と海のつながりを見つめるパネル展（協力：長崎大学水産学部中田教授）も実施しました。

波佐見流！皿踊りで盛り上がる「全体交流会」

①スマホを片手に皿山人形浄瑠璃に食い入る観客

②波佐見焼で乾杯用の盃。サミットのために作製していただきました。

③取り皿もすべてお持ち帰りＯＫ！会話も弾みます。

④お目当ての料理に一斉に手が伸びています。

⑤食改・婦人会さんのお料理も好評。小谷村長さん（中央）も満面の笑み。

⑥ザ！余興。これが、波佐見皿踊りの原点。伝統が引き継がれています。

⑦フィナーレは総踊り。体育センターを埋め尽くした500人が皿を〝カチカチ〟と鳴らし皿踊りを楽しんでいました。町長自ら実技指導。

1

2

3

4

5

6

7

9月29日快晴　天気も見方にし大感動の現地見学会

棚田の説明も大忙し

お母さん総動員！

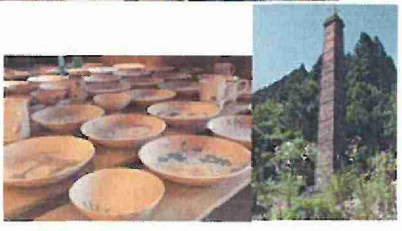
小学生も交流に一役

案山子もお出迎え

中尾上登り窯を望む

窯元さんからの丁寧な説明

背中が物語る波佐見焼の伝統



源さんに見とれて

根掘り葉掘り会話が弾みます。

やきもの公園では、見学者へ小学生自らが作ったウエルカムカードを手渡しました。最初はドキドキした様子の小学生も次第に打ち解け、波佐見町のＰＲを行いました。後日、学校へお礼の手紙が届けられるなど大変好評でした。児童にとっても有意義な課外授業となったようです。

第23回全国棚田（千枚田）サミット共同宣言（全文）

このたび、長崎県波佐見町において、「棚田は２１世紀の社交場」をメインテーマに、棚田に関わる人たちが集い、第23回全国棚田（千枚田）サミットを開催いたしました。
私たちは、先人たちの知恵と努力に感謝しながら、厳しい環境の下、中山間地域等直接支払制度等を活用しながら、それぞれの地域の棚田を守り続けてきました。これからは国民全体への輪として拡げるとともに、国民一人ひとりが何らかの形で、棚田とその地域を応援していただける取組を目指します。

人が集まる棚田には、「美しい」「楽しい」「おいしい」等の要素があります。そうした魅力のある棚田を作るには、棚田で迎える人（農村）だけではなく、棚田へ出掛ける人（都市）の力が必要です。人と人の繋がり（出会い・触れ合い・分かち合い）を大切にすることで、「社交場」と呼ぶに相応しい２１世紀の棚田を実現します。

今、棚田への理解が深まっています。これを好機と捉え、棚田は歴史の、社会の、人々の貴重な財産であることを発信し、みんなの力を合わせて美しい棚田を未来へ引き継ぐため、次のとおり宣言します。

1　美しい棚田は日本の誇り
　私たちは、永続的に美しい景観が保全されるよう、社会全体で棚田を支える機運を醸成しましょう。
2　楽しい棚田は連携の場
　私たちは、農村と都市の交流を図り、知恵を出し合い、棚田の経済活動を活性化させましょう。
3　おいしい棚田は女性の力
　私たちは、田舎が持つ“おもてなし力”を活かすため、女性が積極的に参加できる６次産業化をサポートしましょう。

平成２９年９月２９日
第２３回全国棚田（千枚田）サミット

閉会式「共同宣言」でサミットを締める

全国棚田サミットは共同宣言（左記）に集約されます。鬼木棚田協議会の若手を代表し、清水大輔さん・川平雅昭さん・平田和隆さんが堂々と宣言を行いました。また、来年開催の長野県小谷村の松本村長に全国棚田（千枚田）連絡協議会旗を引き継ぎ、２日間のサミットは無事閉幕しました。

鬼木棚田の後継者に託す

長野県小谷村へバトンタッチ

棚田サミットの成果

サミットを開催して、すぐに効果が目に見えるものではありませんが、基調講演・分科会で出された提案や繋がったネットワークを活かそうと農業者自身が刺激を受けたこと、自分の暮らす棚田の保全に関心を持つ若い世代が増えたことは、大きな前進になったと思います。耕作条件が不利な棚田でもキラリと光る可能性が垣間見えました。

お見送りには、はちゃまるも登場！

運営を支えたスタッフたち。関係機関の協力のもと、職員一丸となって取り組んだ結果、笑顔で大会を終えることができました。

○　問い合わせ先
棚田サミット実行委員会事務局
電話　（８５）２９８０